

平成31年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	公益社団法人宝生会	
施 設 名	宝生能楽堂	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業	
内定額(総額)	5,238	(千円)
公 演 事 業	4,831	(千円)
人 材 養 成 事 業	407	(千円)
普 及 啓 発 事 業	0	(千円)

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>宝生能楽堂の社会的役割が「宝生流能楽」の伝承および普及であり、助成対象事業である公演事業4事業と人材育成事業2事業は適切な番組構成の元、予定通りに進めることが出来たと思われる。能楽堂の所在する文京区は文化事業に力を入れている自治体の為、担当部署であるアカデミー推進課との連携は密に行われていて、区主催事業に能楽のイベントが定期的に行われるようになったことは、双方の努力によるものと認識している。</p> <p>文京区民能楽鑑賞会においては、一昨年11月に要望書として提出した内容とは大きく異なる内容やタイムスケジュールでの開催となったが、これまた宝生流能楽と関係の深い金沢市との友好都市協定締結式を、能楽のシンボルである能楽堂にて執り行うことが出来たことは、文京区と宝生会の連携を確かなものにした証でもあり、より良い進化した形での開催になったことは評価に値すると思われる。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>公演事業のメインターゲットである能楽愛好家、宝生流を支援する方々、文京区民の期待に応えるべく、本格的な能楽の上演の開催、また助成対象の事業以外でも「能楽堂40周年事業」として能楽愛好家の方々との交流を深めるレセプションパーティーを行うなど、ステークホルダーを意識したイベントも行ってきた。現代社会において能楽の存在価値を知らしめるためにも、本助成金を基盤とした事業展開が可能であったことは意義のある事と認められる。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

公演事業・人材育成事業の各事業の集客に関しては、目標達成未達成があるものの、概ね目標通りと判断して良いと思っている。目標として要望書にて挙げた中で、「水準の高い宝生流の能楽を提供する事」「人材育成と連携して様々なニーズに応える能楽公演を実施する事」「広いロビーを活用しお客様にくつろいで頂ける企画を提供する事」に関して、これまで長期に渡ってなし得てきた公演や近年立ち上げた企画公演などで、様々なニーズに応えるべく事業展開してきたことは、評価すべきと思う。当年度で2回目の公演を成功裏に終えた夜能の特別公演については、令和3年より朗読・公演形式に特化した形で開催することが決まっており、本助成を得たことで十分な内容精査が出来たことは、大いに有効であったと考えられる。

夜能公演にて実施している AR メガネによる字幕解説は、公演によってはレンタル台数があまり確保出来ないこともあったが、利用されたお客様からのアンケートによると、機材自体が重く感じるなどの物理的な問題以外は概ね好評で、今後いろいろな形で公演中に情報提供出来るようになる時代がやってくることを想定し、開発を進めて行きたいと考えている。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

有料の公演事業を毎月1回程度のスパンで開催し、無料公演など普及や育成をメインとした事業は年に数回開催するといったこれまでの計画は、予定通りに進められたと認められ、今後も同様の展開をしていくことになると思われる。収支決算、収入面に関しては入場者数においては達成できた公演と残念ながら達成できなかった公演が混在しているが、平均としては想定した収入を確保した。費用面において出演料は当初の出演する実演家メンバーが予定通りに出演したことで大きな差異がなく進められ、その他の経費も予算に計上した通りに支出することが出来た。要望書作成の段階で事細かく計算し予算書を作成したことが大きな要因と思われる。ゆえに現状では今年度の事業費について適切であったと判断している。

また今後の公演継続の課題として事業費に関しては広報費の削減を進めるために、業界全体に蔓延するペーパー依存から脱却することが急務で、リモートワークの推進と合わせて番組解説や広報物の電子化を進めることが大事と思われる。助成金ありきで事業費を組み立てるのではなく、映像配信など公演以外の収益を確保することで公演事業と共存しながら事業費の立て直しを目指したいと思っている。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

文化教育に力を入れている文京区イベントを宝生能楽堂を拠点として開催し好評を得たことは、文京区アカデミー推進課との連携の賜物であると同時に、芸術責任者である宝生宗家がこれまでの能楽公演からの脱却を目指しており、本格的な能楽をいかに能楽愛好家以外の新規の客層に見て頂くかに尽力したことが、大きな要因といえる。能楽という芸能の特殊性すなわち流儀家元が常々申し上げている「文化の持つ価値、殊に能楽は人の心を落ち着かせ道徳的な社会を作り出すことの出来る数少ない芸能である」ことを前面に出し、「能楽」という形を変えずに受け入れて頂く方法を実践している。現在様々な芸能が入り交じり形を変えていく中で、本格的な能舞台と実演家を備え、しっかりした芸能を提供する事の出来る稀有の存在として今後も活動して参りたい。

併せて大事なことはこの素晴らしい芸能を次世代に受け継いでいくことでもあり、東京青雲会事業にて実演家の育成、宝生能楽堂インターンシップにて一般の学生の中から能に興味を持つ人材、能楽他の文化事業に携わる人材の発掘など、10年後20年後を見据えた取り組みを行い、伝統文化継承の輪を広げていきたい。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

対象事業の中では文京区民能楽鑑賞会による区民招待公演の実施や五雲会への区民招待枠の実施の他、宝生会月並能へは文京区に関連する方々（区の職員、謡曲連盟に所属する連盟員、教育関係、アカデミー推進協議会など）の福利厚生の一環として、希望者の能楽鑑賞を誘致している。対象事業外では文京区主催事業である「文京区薪能」や「みんなで楽しむ能プロジェクト」などのイベントに協力し、文化都市を掲げる文京区の象徴的な位置づけを担っている。

現在修学旅行生向けの芸術鑑賞会を開催しており、このノウハウを生かし今後文京区内の中学校向けの芸術鑑賞会を能楽堂で行う準備を進めている。これにより地域に根差した能楽愛好家の育成を目指している。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

能楽を支える要素として「宗家・実演家（能楽師）」「能舞台（宝生能楽堂）」「運営スタッフ（宝生会事務局）」と「観客」のいずれかが欠けても公演として成立しないことを念頭に置き、公演事業人材育成事業に於いて実演家の技術向上（月並能、五雲会、東京青雲会）、観客や運営スタッフの確保（宝生能楽堂インターンシップ、文京区民能楽鑑賞会、夜能）と焦点を分け、それぞれの充実に力を注いだ。公演の運営においては事務所と連携して、宗家の他主要な能楽師による公演企画委員会を構成し、定期的な打ち合わせを重ねることで着実に公演を実施出来るように努めた。

夜能においてはロビーにおける地元ビストロ abat の協力のもと、ナイトモードセットによるアルコールと軽食の提供を行ったり、特別公演における声優による朗読の実施で、声優のファン層を観客として確保するなど、いわゆる普通の公演では確保できない層の観客確保に努めた。心を落ち着ける芸能と朗読の相性の良さをいち早く見出した宝生宗家の手腕と、新たな取り組みを恐れず推進する法人の役員会など、一体となった組織運営が行われていることで、今後進めていく動画配信サービスやオンラインレッスンなど含め、業界を先導する役割を果たして行きたい。